

浜松の偉人シリーズ ミニ折本【梯郁太郎 編】

A3サイズで印刷して、線のとおりに切り込みを入れ、折ってください
切る ————— 山折 ————— 谷折

8

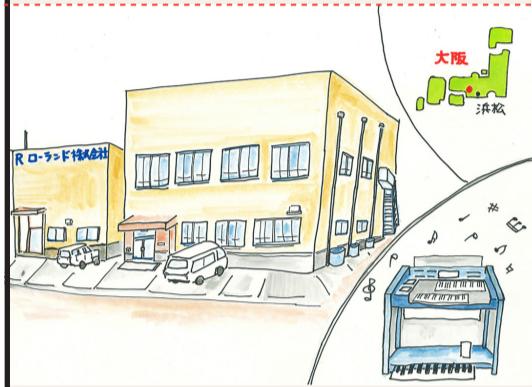
7 6

5

梯太郎は、電子楽器の開発者として世界で認められました。1960年には「電子工業会議」が開催され、梯太郎はその会議で「電子音楽」を発表しました。また、1963年に「電子音楽研究会」が設立されました。

「電子音楽研究会」は、梯太郎の「電子音楽」を広めようとした組織です。

昭和 28 年（1953 年）大蔵貿易公司で電子音楽研究会を開催しました。



昭和 42 年（1976 年）梯太郎は、アメリカの会社ハモンドと共に会社をつくり、電子オルガンをつくります。

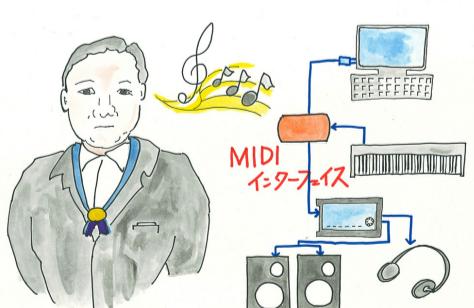
昭和 47 年（1972 年）には、大阪で新しい会社をスタートしました。これが「ローランド株式会社」の誕生です。

梯太郎は、しばらくして新しい工場を浜松に建てました。



梯太郎は、20 才になりました。戦争のためにできなかった大学受験を決心し、「かけはし時計店」をやめました。そして、大阪に引っ越しました。

梯太郎は、電子ピアノやシンセサイザーなど電子楽器を世界に数多く送り出しました。また演奏の情報を電子信号に変えて伝えるため、世界共通の規格「MIDI（ミディ）※」を生み出す中心的な役割を果



梯太郎は、電子ピアノやシンセサイザーなど電子楽器を世界に数多く送り出しました。また演奏の情報を電子信号に変えて伝えるため、世界共通の規格「MIDI（ミディ）※」を生み出す中心的な役割を果

たしました。その活躍が認められて、米グラミー賞のテクニカル・グラミー賞を、日本人で初めて受賞しました。このようにして、梯太郎は、浜松に電子楽器をつくる大きな工場を建て、その活躍は、世界中の音楽に大きな影響を与えました。

※MIDI

Musical Instruments Digital Interface の略で、電子楽器どうしを接続するための世界共通規格



主な参考資料

- 「ライフワークは音楽」梯太郎／音楽之友社
- 「サンプルのない時代」梯太郎／音楽之友社

浜松科学館

作成：2025年 監修：ローランド株式会社

金を得まへた。
大阪府立人間文化研究所の修理室で工作
能太郎は努力の方針、治療のため
金を貯めました。



ところが、郁太郎は肺結核という病気になり、やむなく療養所に入りました。

ですが、病気がなかなか治りません。
郁太郎は、大学進学をあきらめざるを得ませんでした。

太平洋戦争が終り日本、大阪に相次ぎ
復興工事がはじまりました。



浜松の偉人シリーズ ミニ折本



ローランド。
電子楽器をつくる世界的な会社です。
この会社が、浜松にあります。
つくった人は梯郁太郎。

作成：浜松科学館 監修：ローランド株式会社

13

14